

司書課程・司書教諭課程行事報告

2007年度、まずは例年どおり、4月28日（土曜日）の午後に、図書館ガイダンスを開催した。尋真館地下1階1番教室で全体会を行った後、尋真館地下1階の各教室にて分科会を行い、その後、改めてまとめの全体会を持った。総計約70名の学生が出席した。各分科会の講師をお引き受けくださった卒業生は、次のとおりであった。お忙しい中、お時間をさいて遠方から後輩のためにおいでくださった講師の皆さま、ありがとうございました。

公共図書館グループ：竹島昭雄氏（栗東市立図書館館長）；千歳則雄氏（野洲図書館館長）；竹内洋介氏（富山県立図書館）；西尾恵一氏（大阪府立中央図書館）；前田笑氏（東近江市立八日市図書館）

大学図書館グループ：中村健氏（大阪市立大学学術情報総合センター）；魚住英子氏（関西学院大学図書館）

学校図書館グループ：永井淳子氏（同志社女子中・高等学校）；香西瑠衣氏（京都府立西舞鶴高等学校）

専門図書館グループ：松田恵治氏（京都新聞社）；高木睦子氏（大阪府立特許情報センター）

国立国会図書館グループ：宇治郷毅氏（同志社大学；元国立国会図書館副館長）；依田紀久氏（国立国会図書館関西館）

大学院進学グループ：原田隆史氏（慶應義塾大学）；中島幸子氏（帝塚山大学）；瀬戸口誠氏（梅花女子大学）

従来、専門図書館グループの中で国立国会図書館の志望者にも対応していたが、本年度は新たに国立国会図書館グループを設けた。同グループにもかなり熱心な国会図書館志望者が集まり、こじんまりとしながらも活気ある意見交換が行われていた。学生たちからは、OB／OGの方たちから図書館について具体的なお話をうかがえたことで図書館への理解が深まったように思う、といった声が聞かれた。近年毎年のようにおいでいただいている講師の中に、資料を用意してきてくださった方がおられた。お忙しい中、お時間をさいておいでくださっただけでなく、前年をうけて、事前の準備もしていた

いただいたことに対して、心から感謝申し上げたい。

7月4日には、本年度の講演会には、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のレズリー・ファーナー博士 (Dr. Lesley Farmer) をお迎えして公開講演会を開催した。ファーナー博士は、カリフォルニア州の幼稚園から高等学校までの学校図書館職員を輩出している同大学のプログラムの責任者である。長い間、優秀な学校図書館職員の養成に関与してこられただけでなく、情報リテラシーの育成や学校図書館の経営といった問題について多くの研究業績をおもちである。講演会では、学校図書館が、情報リテラシーの育成にいかに関わるかについて、米国の先進事例を紹介しながら、お話いただいた。学校図書館の社会的意義について改めて考えるきっかけとなるお話をうかがうことができた。この講演会の記録は、〈特別講演〉として、本誌に収載した。

夏休みの終わりには、14名の学生が宇治郷先生と中村の引率で、東京地区図書館見学会に参加した。その行程は、次のとおりであった。9月27日の朝に東京駅に集合。国立国会図書館国際子ども図書館見学したあと、昼食（東京藝術大学構内の学食などで自由にとった）。午後は、松居直氏講演および福音館書店見学。そのあと、株式会社図書館流通センター（TRC）を訪れ、卒業生の田山健二さんにご案内いただいた。そして翌日9月28日の午前中には千代田区立千代田図書館を見学。永田町に移動して、国会議事堂内の国立国会図書館国会分館を見学し、食堂で昼食。午後は国立国会図書館本館を見学した。本学卒業生の図書館営業部・田山健二さんにご案内いただいた。夜は、福音館書店総務部の棚澤秀孝さんと国立国会図書館勤務の本学卒業生、大月晶代さんと奥野諒子さんに加わっていただいて、ホテルのレストランで楽しく交流会をもった。本誌には、〈東京地区図書館見学記〉として、同見学会に参加した学生の代表者1名に報告を書いてもらった。千代田区立図書館は、指定管理者による運営を見学することができ、活発な質疑応答もさせていただき、大変貴重な機会を得たと実感した。例年見学を受け入れていただいている国立国会図書館本館、同国際子ども図書館、図書館流通センター、福音館書店の皆さまも、お忙しい中での見学の受け入れ、本当にありがとうございました。

また、11月8日には、東京大学教育学部准教授の影浦峽先生に、中村の担

当している「学校教育図書館論」の講義の時間で、特別講演をしていただいた。先生が一昨年出版された『子どもと話す言葉ってなに』（現代企画室、2006）を授業で参考図書に指定させていただいたのだが、その内容を私の力不足から十分に講義に盛り込めていなかったのが、影浦先生に講義していただいたのである。大変勉強になったので、この内容も〈特別講演〉として本誌に掲載した。当日、影浦先生に、私を含め、100名ほどを問答形式で鍛えていただいたが、すばらしい体験であった。

（文責・中村百合子）